

SCOPE NEWS

CONTENTS

- 1 最近のSCOPEの動向
- 2 「第13回評議員会」「第45回理事会」開催報告
- 3 「福岡空港滑走路増設事業技術検討会最終報告会」の開催
- 4 日尼EPAに基づく港湾研修
- 5 SCOPE 研究開発助成成果報告会の開催
- 6 SCOPE 現場訪問
千葉港海岸直轄海岸保全施設整備事業
- 7 SCOPEからのお知らせ

最近のSCOPEの動向

常務 松原 裕

女性活躍・若手活躍

本年6月に経営企画担当の常務理事に就任しました。昨年12月までの3年間、カリブ海に浮かぶ国、トリニダード・トバゴにある日本大使館に勤務。赴任して最初に驚いたことは、かくも女性が政治、行政、外交の場で活躍しているのか、ということ。同国の大統領をはじめ閣僚の3分の1、各省庁の事務次官の3分の2は女性。現在は首相、野党党首も女性だ。また、同国に27カ国の大使館が置かれていたが、米、英、独、豪、トルコ、パナマ、コロンビア、キューバ、ジャマイカは女性大使だった。さらに、日本大使館は周辺9カ国を管轄していたが、そのうち6カ国の外務事務次官も女性だった。

日本では女性活躍推進法が公布施行されて今年で10年。中央省庁ではこの間、総合職の女性採用割合を35%以上と定め、多くの省庁がその目標を達成してきている。外務省は目標を大きく上回りほぼ半数が女性、近い将来、日本外交を女性が牽引する時代が来るに違いない。一方、この目標に遠く及ばないのが国土交通省と防衛省。国土交通省では事務系に対し女性採用者割合の低い技術系が多数を占めて

いるためだ。土木・機械・電気等を専攻する理系女子の少なさに加え、広域異動、現場事務所での働き方に対する不人気もあるようだ。

さて、SCOPEはどうか。事務系では女性管理職が大いに活躍している。しかし全職員の9割を占める技術系では女性割合は全体の3%。SCOPEは発足以来30年、建設会社や役所で知識・経験を積んだ技術者（結果的に男性技術者）を迎え入れ経営されてきた。しかし、この人材獲得モデルは通用しなくなりつつある。65歳定年制への移行やコロナ後の景気回復が熟練技術者、経験者の獲得を困難にしているからだ。持続可能な経営を成り立たせるためには、もはや男女を問わず若手を採用し育成することが不可欠である。

SCOPEは、一昨年から大学・高校の技術系の新卒者採用を開始した。昨年4人（うち女性2人）、今年6人（同1人）。正職員400人の組織からすると決して十分な人数ではない。少子化が進展する中、新卒者のリクルートは待ったなし。



あわせて人材の流動化が進む中で、中途採用も含めた多様かつ柔軟な雇用体制を整える必要もある。このため、インターンシップ、教育研修制度、男女ともに仕事と育児・介護が両立できる制度、福利厚生等の充実に努めている。男女・年齢を問わず港湾・空港への想いを寄せる者が集い研鑽を積み協力して我が国の国際重要インフラを支えていくSCOPE、その中核で多くの若手技術者、女性技術者が輝く時代が近いうちにやってくる。



「第13回評議員会」「第45回理事会」開催報告

..... 経営企画部 総務担当課長 高橋 秀記

令和7年6月10日（火）15:00～「第13回評議員会」（於：SCOPE2階会議室）を開催いたしました。

まず始めに山縣理事長から挨拶があり、その後来賓としてご出席いただいた国土交通省大臣官房技術参事官の安部様ご挨拶の後、事務局より定足数確認の報告が行われました。

次に評議員の互選により磯部評議員が議長に、議事録署名人については原評議員・廻評議員が選任されました。

続いて「令和6年度事業報告及び決算報告に関する件」他4件が審議され承認されました。その他として「令和7年度事業計画・収支予算の件」他1件を報告いたしました。内容は以下のとおりです。

いずれの案件も採決の結果、承認されました。

第13回評議員会

【審議事項】

第1号議案「令和6年度事業報告及び決算報告に関する件」

第44回理事会において承認された内容について大野専務理事、岡本業務執行理事が説明いたしました。

前田監事より監査結果について、適正に行なわれている旨の報告がありました。

第2号議案「定款の一部改正に関する件」

理事の職務執行体制の強化を図るため、定款第20条で定める理事の人数の上限を12名から14名に増員し、これに合わせて業務を執行する理事の人数について「理事長及び専務理事以外の5名以内」から「理事長及び専務理事以外の7名以内」とする一部改正について審議され、原案どおり承認されました。

第3号議案「理事及び監事の選任の件」

第44回理事会において審議され、本評議員会に推薦する新任理事候補者3名、新任監事候補者1名、再任理事7名、再任監事1名について、採決の結果、全員異議なく原案どおり議決されました。併せて、非改選理事2名について報告をいたしました。

【理事】

（新任・常勤理事）鈴木 徹、中島 靖、松原 裕

（新任・非常勤監事）細川恭史

（再任・常勤理事）山縣宣彦、大野正人、岡本圭司

（再任・非常勤理事）縣 忠明、大橋正和、建山和由、松田英三

（再任・非常勤監事）前田 博

（非改選・常勤理事）水上純一、松田英光

第4号議案

「役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規則の一部改正の件」

定款第20条で定める理事の人数を上限12名から14名に増員する改正を行うことに伴い、「役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規則」の一部改正について審議され、原案どおり承認されました。

第5号議案「評議員の選任の件」

評議員の任期満了に伴い、次期評議員の選任をいたしました。

再任、非改選評議員は以下のとおりです。

（再 任）磯部雅彦、上村多恵子、児玉平生、善 功企、

徳平隆之、原 浩、廻 洋子

（非改選）小林潔司、角田光男

【報告事項】

以下の2件について報告をいたしました。

・「令和7年度事業計画・収支予算の件」

・「公益目的支出計画実施報告書の件」



以上をもって第13回理事会は閉会となりました。

引き続き「第45回理事会」を開催し、以下4議案について審議されました。

いずれの案件も採決の結果承認されました。

第45回理事会

【審議事項】

第1号議案

「理事長、専務理事、常務理事及び業務執行理事の選定の件」

理事長・代表理事 山縣宣彦

専務理事・代表理事 大野正人

常務理事 松原 裕

業務執行理事 岡本圭司、鈴木 徹、中島 靖

なお、以下の常務理事及び業務執行理事に変更はありません。

常務理事 水上純一

業務執行理事 松田英光

第2号議案

「専務理事、常務理事及び業務執行理事の業務分担決定の件」

〈業務分担〉

専務理事（代表理事）大野正人（常務理事及び業務執行理事に属さない業務）

常務理事 松原 裕（経営企画に関する業務）

常務理事 水上純一（システム、空港、国際及び建設マネジメント研究所に関する業務）

業務執行理事 岡本圭司（会計、財務に関する業務）

業務執行理事 鈴木 徹（調査及び審査・認定に関する業務）

業務執行理事 中島 靖（北海道地域に関する業務）

業務執行理事 松田英光（洋上風力発電に関する業務）

第3号議案「役員候補者審査会の取扱規則」の改定の件

役員候補者審査会委員の人数を4名から5名に増員し、加えて外部有識者の人数を2名から3名とすることについて審議を行い、承認されました。

第4号議案「役員候補者審査会の委員の選任の件」

役員候補者審査会取扱規則の規定に基づき、委員5名の選任（案）について審議し、採決の結果、全員異議なく原案どおり承認されました。

【新任委員】

（外部有識者）加藤一誠（非常勤監事）細川恭史

【再任委員】

（外部有識者）大谷鮎子（外部有識者）近藤健雄

（非常勤理事）縣 忠明

以上をもって第45回理事会は閉会となりました。

最後に今回の評議員会・理事会の開催にご協力頂きました関係者の皆様に感謝を申し上げ、報告とさせていただきます。

「福岡空港滑走路増設事業技術検討会最終報告会」の開催

九州支部 副支部長 池田 高則

SCOPEでは平成27年より令和6年までの約10年間、福岡空港滑走路増設事業に係わる施工検討業務を行ってきました。本業務においては学識者や関係者で構成する「福岡空港滑走路増設事業技術検討会」を開催して助言や指導をいただけてきました。

福岡空港第2滑走路が供用開始された事を機会にSCOPE主催の「福岡空港増設滑走路施工技術検討会最終報告会」（以下最終報告会）を開催し、検討会委員へ増設滑走路の供用開始を報告いたしました。

最終報告会では森島福岡空港長から滑走路増設事業の他に福岡空港の混雑対策として国内線ターミナルビルセットバックによる誘導路二重化関連事業や福岡市奈多地区への回転翼機の移転事業などの関連事業が報告されました。



森島空港長

若口博多港所長からは福岡空港の滑走路増設の整備において地中支障物への対応や耐震対策の概要について報告がありました。



若口博多港所長

福岡国際空港（株）（FIAC）篠課長より滑走路の増設に併せて福岡空港国際線ターミナルビル北側増築などの福岡空港活性化投資について報告されました。



FIAC篠課長

福岡空港増設滑走路施工技術検討会委員

役職	氏名	所属
委員長	善 功企	九州大学 名誉教授
委員	渡部 要一	北海道大学大学院工学研究院 教授
	笠間 清伸	九州大学大学院工学研究院 教授
	櫻木 雅仁	福岡国際空港株式会社 代表取締役副社長 執行役員
	曾根崎 義孝	福岡給油施設株式会社 取締役 福岡空港事業所 所長
	平尾 壽雄	一般社団法人日本埋立浚渫協会 顧問
	坂 克人	一般社団法人日本建設業連合会 常務執行役

最終報告会では地上13階建て高さ94.2メートルと羽田空港に次国内2番目の高さの管制塔の展望室からの増設滑走路の運用状況視察と国際線ターミナルビルの視察を行いました。



福岡空港管制塔



管制塔展望室からの視察



増設ターミナルビル視察

国際線出発エリア視察

最終報告会終了後に福岡市内において意見交換会を実施し、約10年間にわたり委員長を努められました善九州大学名誉教授よりご挨拶をいただきました。

最終報告会の終わりにSCOPEを代表して松原技術顧問から各位委員に対してお礼を申し上げます。



善委員長



松原技術顧問

日尼EPAに基づく港湾研修

建設マネジメント研究所 特任調査役 稲葉 正明

2025年7月2日から4日の3日間、インドネシア国ジャカルタのAyana Midplaza Jakartaで「日本・インドネシアEPA (Economic Partnership Agreement) に基づく港湾研修」が、国土交通省港湾局とインドネシア運輸省海運総局の主催で開催された。

今回の研修は、国際環境基準に沿った近代的な港湾インフラ計画と持続可能な開発の要求を満たすことができる有能で適応力のある海事人材の育成を目標とし、日本側から様々な知見を得る事を主目的にして行われた。

その様な状況の中、インドネシアの海運総局 (Directorate General of Sea Transportation, DGST) から、会場及びOn-Lineを通じて、多くの若手技術者参加があった。

本研修会の開会にあたって、まず、インドネシアの海運総局局長、日本の港湾局の代表、日本大使館からの挨拶が行われた。

引き続き、以下の講義 (各75分) が英語で行われた。参加したインドネシア技術者は英語での講義を理解しており、各講義後の質疑時間 (15分) では、参加者から様々な質問が出され、規定の質疑時間では収まらないほど活発な議論が行われた。インドネシアの若手技術者の積極性を感じた。

	題名	担当者 (敬称略)
第1日目	港湾運営・管理の歴史と比較	OCDI 寛
	CNP (Carbon Neutral Port) の形成	港湾局 富田
第2日目	港湾工事の施工	SCOPE 稲葉
	航路の維持管理	港空研 中川
	港湾施設の維持管理	港空研 川端
第3日目	日本の港湾設計基準の概要	国総研 竹信
	BIM/CIM	港湾局 對木
	港湾沿岸域における防災対策	国総研 本多

各講演と質疑の終了後、会場の参加者及びOn Lineでの参加者を対象に、ゲームの要素を持った理解度テストが行われ、優秀者には記念品が贈られた。



3日間の研修の最後に、DGSTの港湾設計・計画課長からの挨拶をもって閉演となった。



筆者の講演状況



講演終了後の集合写真 (若手技術者が多い)

主目的であるジャカルタでの港湾研修にあわせ、日本からの参加者は、下記の現場視察を行った。

	現場名 及び 面会者
1	パティンバン港開発工事 (面会者) オリエンタルコンサルタント、五洋JV、東亜JV、PICT & PGGT (港湾運営者)
2	タンジュンプリオク港湾施設 (NPCT) (New Priok Container Terminal) (面会者) 三井物産

パティンバン港開発工事では、下記の日本の技術が初めてインドネシアで採用されており、これらの概要及び長所について、小職の研修講演の中でもその概要を解説した。

- 1) CDM地盤改良工法 (Cement Deep Mixing)
- 2) 各点式ストラット工法 (Nodal Strut Method)
- 3) 管中混合固化処理工法 (Cement Pipe Mixing, CPM)



港長との面会



現場での工事説明

今回の港湾研修では、若手技術者の参加が多く、質疑も活発で、研修から技術／新情報を習得しようとする意気込みが感じられた。今後もこのような研修会が開催されれば、日尼の技術者のよりよい関係・交流を構築できるものと思う。

SCOPE 研究開発助成成果報告会の開催

..... 建設マネジメント研究所 研究主幹 長谷川 はる香

SCOPEでは、港湾・空港分野における技術研究開発と開発技術の普及を目的に、平成13年度に研究開発助成制度を創設し、以来、港湾、海岸及び空港の建設・維持管理事業の発注や施工に係る技術、システム等に係る研究を行う大学、高等専門学校、民間企業等の研究者及び研究グループに対して助成を行っています。

今般、令和7年7月11日（金）に、令和6年度に助成を行った研究について、その成果をご報告いただく「SCOPE 研究開発助成（令和6年度実施）成果報告会」を開催しました。当該報告会は、土木学会継続教育(CPD)プログラムの認定を受けており、当日は、SCOPE内外か

ら対面及びWEBにて、合計約90名の参加がありました。

報告会では、初めに当センターの大野専務理事から「SCOPEの研究助成制度は、“すぐに成果に結びつかずとも、研究者の方々が新しいことへ挑戦し、色々な苦労を経験することを支援する”という意義がある。今回の研究報告を通じて、新たな挑戦、苦労についての話が聞けることを期待している。」との開会挨拶を行った後、研究者の方々から成果報告をしていただきました。

報告をいただいた研究テーマ及び報告者は、以下のとおりです。

研究開発項目	研究テーマ	報告者
港湾、海岸及び空港における大規模災害対策に関する研究	防波堤の耐津波化に向けた後趾近傍のマウンド部分固化範囲の検討	豊橋技術科学大学 松田 准教授
	大規模火山災害に対応した港湾、空港のBCPに関する研究	神戸大学大学院 竹林 教授
洋上風力発電に係る施設整備・維持管理に関する研究	接合部を有するPRC部材の水中での曲げ疲労破壊挙動の解明	横浜国大大学院 小松 准教授 ※
港湾、空港におけるカーボンニュートラルに資する技術に関する研究	瀬戸内海全域を対象とした流動環境予測技術の高精度化に関する研究	神戸大学大学院 内山 教授 ※
港湾、海岸及び空港における技術の伝承・人材育成に関する研究	生成AI時代を見据えた海象学習モデルの構築	広島大学大学院 日比野 准教授
その他、当センターの目的に合致するもの	火山堆積物を用いた海水練りコンクリートの港湾構造物への適応に関する基礎的研究	九州大学大学院 福永 助教
	係留式越波対策工の実現に向けた基礎的検討	九州大学大学院 山城 教授

※VTR報告



豊橋技術科学大学
松田 准教授



神戸大学大学院
竹林 教授



広島大学大学院
日比野 准教授



九州大学大学院
福永 助教



九州大学大学院
山城 教授

報告会の最後に当センターの水上常務理事から、「今回の報告では、実験や計測データがベースになっている研究が多かった。実験にはお金と時間がかかるが、そこに挑戦していただいたことが良かった。また、研究助成に加えて各研究者の方々の努力があつてのことであり、感謝申し上げる。今回の研究成果をさらに発展させてほしい。」との

閉会挨拶が述べられ、終了しました。

報告書及び発表資料については、当センターホームページの「研究開発助成」>「過去の研究開発助成実績及び成果」に、掲載していますのでご覧ください。

<https://www.scopenet.or.jp/main/research/result.html>

背後地の安全と経済活動の維持のために

千葉港海岸 直轄海岸保全施設整備事業



【お話を聞いた人】

一般財団法人港湾空港総合技術センター

関東支部

調査役 渡辺 信さん（管理技術者）

千葉支所

主任テクニカル・エキスパート	樋口 勇一さん
テクニカル・エキスパート	木村 治信さん
テクニカル・エキスパート	江本 洋一さん
テクニカル・エキスパート	石田 友美さん

背後地に市の中核機能が集積する 千葉港海岸船橋地区

千葉港は約24,800ヘクタールという日本一広い水域面積を持ち、6市（市川市、船橋市、習志野市、千葉市、市原市、袖ヶ浦市）にまたがる海岸線は延長約133kmに及びます。

そのうち船橋市は、中核市として日本最大の人口（64.5万人）を有し、中心部のゼロメートル地帯に市役所や消防署など地域の中核機能が集積しています。また鉄道や国道など都心と結節する重要な交通網の集中とともに、住宅や産業・商業施設が多く立地しています。

事業を実施する千葉港海岸船橋地区は東京湾の最奥部に位置し、台風通過時には高潮に加えて強い南風による吹き寄せ効果が働いて潮位が著しく高くなる傾向があります。一方、現存の海岸保全施設は旧基準に基づき50年程前に整備されたため、現在求められている天端高を満たさず老朽化が進行しており、大規模浸水の発生リスクが高まっています。また、船橋市は首都直下地震緊急対策区域に指定されており、施設の耐震性確保は喫緊の課題となっています。これより同地区では現在、

海岸保全施設の嵩上げと耐震対策などの整備事業を実施しています。

整備に当たっては限られたスペース内で十分な施工空間を確保できる工法の選定や、年間200回以上の開閉を行う水門など現行の機能を維持しながらの施工など、高度な技術が必要とされることから、国土交通省の直轄事業として2022（令和4）年3月25日に採択されました。

今回は千葉港海岸船橋地区の現場を訪ね、整備事業の内容やSCOPEの役割などについてお話を伺いました。

高剛性壁体を海岸事業で初採用

今回の直轄事業対象箇所のうち、日の出護岸、日の出胸壁の一部はすでに工事が完了しています。これらの護岸、胸壁の主な部材には、海岸事業では初採用とな

る高剛性壁体が使われています。

「施工の前提として、工場・住宅等が近接している環境で、既設の海岸保全施設を機能させながら新たな施設を構築することが求められます。そのため、高さや強度の条件を満たしつつ、極力スリムな施設を造成できる資材として、鋼矢板とH形鋼を一体化した高剛性壁体が採用されました。この構造は鋼管矢板で設計した場合に比べて鋼材の寸法・重量とも小さくでき、施工時の重機の小型化、騒音・振動の抑制にも寄与します」（調査役 渡辺さん）

「高剛性壁体は、芯材となる鋼材の搬入条件から2本継ぎとなり、まず1本目の約11mの鋼材を打設し、途中で2本目を全周溶接で繋ぎ合わせ、地上から約17mの深さまで振動工法（パイプロハンマ）で打設します。硬い地盤には、補助工法（ウォータ



工事完了状況（日の出胸壁/陸側）
（右上のDATA図 A地点）



工事完了状況（日の出胸壁/海側）
（右上のDATA図 B地点）

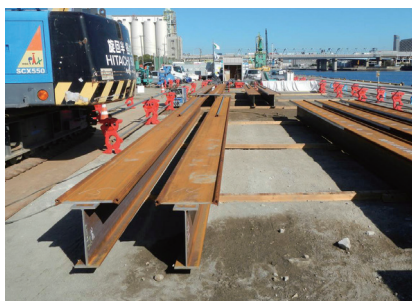
【DATA】

千葉港海岸直轄海岸保全施設整備事業

整備施設：護岸(改良)(915m)、胸壁(改良)(1,255m)、
陸間(改良)(7基)、排水機場(1箇所)、水門(1基)
事業期間：令和4年度～15年度



国土地理院の空中写真を基に作成



鋼矢板とH形鋼を溶接で一体化した高剛性壁体

ジェット)併用で地中を崩しながら打ち込みます。出来高は1日3本程度となります」
(主任TE 樋口さん)

背後には民間企業が隣接しているため、夜間の作業も行われています。

「日の出護岸のコンクリートを打つときはどうしても陸側から行わないといけませんが、昼間は近隣企業の車両が通行するので、夜間にコンクリートの打設を行いました。ここが一番大変なところでしたね」(TE 木村さん)

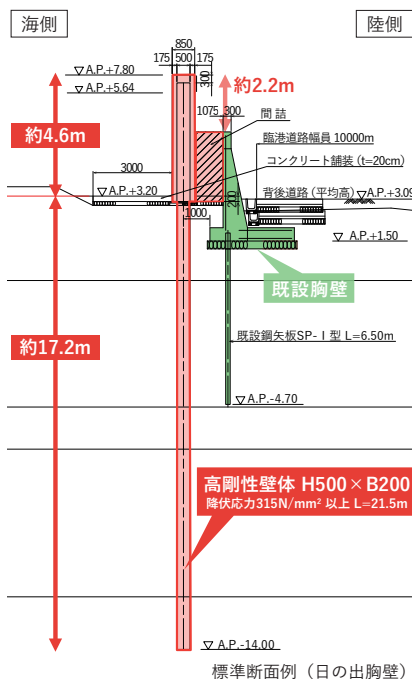
背後地域や漁業関係者への影響も熟慮

SCOPEの役割としては主に施工状況確認補助業務と監督補助業務を行っています。

「施工場所の制約条件や現場特性を十分に理解し、設計図書や施工計画書などから施工管理基準等と照合して適合性や



画像提供：国土交通省 関東地方整備局 千葉港湾事務所
工事完了状況(日の出護岸)(上のDATA図 C地点)
幅員約3.4mの道路から、夜間にコンクリートの打設が行われる



標準断面例(日の出胸壁)



高剛性壁体の打設状況

妥当性を事前に確認し、実施工の出来形と品質を確認しています」(TE 石田さん)

「千葉支所の業務の対象区間が船橋地区のほか、葛南中央地区、千葉中央地区、木更津港富津沖までと広範囲で移動に時間がかかるので、早めの行動を心がけています。デジタル技術を活用した遠隔臨場も多くなっており、全体を見たい時など現場に実際に行かないとわかりづらいところがありますが、工事管理工程は簡素化できていると思います」(TE 江本さん)

今回の事業区間は市民生活の場と隣接しているため、地元住民や漁業関係者、企業らの協力を得るための調整も重要になります。「胸壁部では岸壁利用者、周辺事業者との調整や安全面での配慮、護岸部では漁業への影響や航行船舶との調整なども必要となり、安全面での配慮も含めてさらに密な調整が必要になります。(TE 江本さん)

今年度後半からは、市民の生活道路にもなっている海老川水門の整備に着手予定で、最終的には2033(令和15年度)に全ての箇所が完成する予定です。背後地域を高潮や津波から守り、人々の安全な暮らしや経済活動を維持していくための整備事業の完成に大きな期待が寄せられます。



今年度後半から着手予定の海老川水門(左のDATA図 D地点)

VOICE 現場からの声

調査役 渡辺 信さん

関東支部では、当該業務の他に、船橋地区設計・調査業務も行っています。メインの写真は、同業務でドローン撮影したものを利用しました。

主任テクニカル・エキスパート 樋口 勇一さん

当該業務2年目となります。現場が点在しているため、ようやく土地に慣れてきたところです。業務としては、施工状況確認補助および監督補助が一緒になっているため、本業務から雑務まで幅広く行っています。担当技術者はそれぞれ港湾工事経験者であり、互いにわからない事は確認して情報の共有を行い、コミュニケーションをとり、時には笑いを交えながら業務を進めています。

テクニカル・エキスパート 木村 治信さん

労働集約的産業である「土木」の継続的な技術者不足の課題への対策として、積極的に「建設技術のデジタル化」等の新技術の利用が進んでいます。当該業務で係わる社会資本の整備は、永遠のニーズがある分野です。新技術を理解し、自分の経験を加え、発注工事の円滑な履行と品質確保に努めたいと思います。

テクニカル・エキスパート 江本 洋一さん

最近は遠隔臨場が増えて直接現場に行くことが少なくなり、ICT施工等で出来形などが一気に電子機器化されて理解するのにひと苦労し、日々まだ勉強の毎日です。しかし、現場で構築するものはまだ人力に頼るところも多々あるので、働く人達とコミュニケーションを十分取り、現場が同じ目標に向かって安全に、かつ品質の高い構造物を構築していきたいと思っています。

テクニカル・エキスパート 石田 友美さん

本業務にも大分慣れたところですが、慣れからくるミスが一番怖いと思っています。立会での確認不足などにより品質確保の観点から不具合が生じては、発注者、受注者ともに損失を伴うことになります。事前確認を入念に行い、不足等が生じないように心がけるとともに、品質という重要な部分に携わっていることを再認識し、微力ながら本事業の一助になればと思っています。



左から、TEの江本さん、木村さん、調査役の渡辺さん、主任TEの樋口さん、TEの石田さん

VOICE

発注者からの声

国土交通省 関東地方整備局 千葉港湾事務所
保全課長 菅 崇 さんにお話を伺いました。

船橋市沿岸部は、昭和20年代以降の大規模な埋め立てにより絶えず「モノ」と「ヒト」が集まり、海辺の様子が大きく変わりました。今回事業を実施している千葉港海岸船橋地区の背後には、中核市の中で最大規模の人口を有する船橋市の中心部を控えています。このため、ひとたび浸水被害が発生してしまうと、その影響は計り知れないものとなります。現況施設の課題の1つ目は、高潮による大規模浸水被害への対応です。2つ目は、地震に対する脆弱性への対応があります。3つ目は、海岸保全施設の老朽化への対応です。現況施設は、建設後50年程度が経過しているため、「ひび割れ」や「目地の開き」、「機械設備の老朽化」などが進行しているのが実情です。こうした高潮や大規模地震など災害リスクへの備えと、施設の老朽化対策のため、令和4年度より、地域の安全・安心確保、国土保全の観点から、施設改良を行う事業を開始しました。

事業を進めるにあたっては、本事業が直轄事業化される上で大きな役割を果たした船橋地区海岸保全施設耐震化促進協議会（地元12町会、約200社の背後企業）、千葉港海岸船橋地区行政連絡協議会（千葉県・船橋市・国）を通じて地元住民、漁協、企業

への説明等を行い、合意形成を図っています。このほか、実際の調査や工事の前には漁協、背後企業、官公庁など関係する団体にも丁寧な説明を心がけて実施しています。

施工場所は整備効果の発現を期待して「日の出胸壁および護岸」から整備を進めています。当該場所は、造船工場や流通企業の一般車両が通行する場所で、施工範囲も供用中岸壁の間で作業車両が行き交うなど厳しい施工条件です。そうした狭隘な場所で高剛性壁体を打設するので、安全に最大限留意しつつ、品質確保が求められています。高剛性壁体の打設は海上から行うため、汚濁防止膜や監視船を配備する対応をしました。また、上部コンクリート打設では、日中、近隣企業の車両が通行することから、夜間のコンクリート打設を行うなど、適切な施工に努めております。SCOPEの皆様は経験豊富で現場を熟知されており、発注者を支えていただきとても頼りにしています。今後も技術力や品質の向上に期待しています。



取材・文：(株)ホライゾン

SCOPE からのお知らせ

■令和8年度研究開発助成、教育・研究環境改善のための助成募集開始

下記助成への公募を9月中旬より開始します。締め切りは11月30日を予定しています。詳細は下記URLを参照してください。

①研究開発助成	②教育・研究環境改善のための助成
当センターでは、港湾、海岸及び空港及び海洋施設の建設・維持管理事業の発注及び施工に係る技術及びシステム等に係る研究課題を対象に、大学、高等専門学校等の研究者及び研究グループが行う研究開発に対して助成を行います。 助成金額、期間及び件数 助成金額：200万円以内/件 助成期間：約1年間 助成件数：5件程度 https://www.scopenet.or.jp/main/research/koubouR8.html	当センターでは、大学・高等専門学校及びこれらに付属する機関において、港湾、海岸、空港及び海洋分野の研究、技術者育成・教育に利用される実験設備等の改修等を通じて、教育・研究環境を改善するための助成を行います。 助成金額、期間及び件数 助成金額：500万円以内/件 助成期間：約1年間 助成件数：3件程度 https://www.scopenet.or.jp/main/research/sisetukoubouR8.html

■第9回洋上風力セミナー開催のご案内

第9回洋上風力セミナーを9月30日（火）15：00～17：20にYouTubeライブ配信にて開催いたします。詳しくはSCOPEホームページ（<https://www.scopenet.or.jp/main/course/index.html>）で、ご覧ください。

基調講演	国土交通省 港湾局 海洋・環境課長 馬場 智 氏
講演	東京大学大学院 工学研究科システム創成学専攻 名誉教授 鈴木 英之 氏
講演	浮体式洋上風力建設システム技術研究組合 (FLOWCON) 専務理事 水流 正人 氏
講演	ひびきウィンドエナジー株式会社 取締役建設所長 笠原 寛 氏

皆様のご意見ご感想をお待ちしております。



一般財団法人 港湾空港総合技術センター

URL: <https://www.scopenet.or.jp>

本部：〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-1 尚友会館3階
代表 TEL：03-3503-2081 FAX：03-5512-7515